



北九州市の性教育のこれから

～今日来てくれた皆さんと取り組みたいこと～

2024年10月18日（金）



北九州市障害者基幹相談支援センター 助産師
相談支援担当課長／小児慢性特定疾病支援室長 松本麻子(まつもと あさこ)



基幹相談支援センターの取り組み

実際に寄せられている相談内容と、その対応について…



支援の現場で おこること①



□ 他の児童がいる前で突然ズボンを脱いで性器を見せる、自慰行為をする。

□ 手持ちぶさたの時に、ズボンの中に手を入れて性器をさわる。

□ スーパーのレジの前でいきなり下腹部を出す。下着が見える座りかたをする。



※放課後等デイでの調査結果
坂爪真吾著「パンツを脱いじゃう子どもたち」より



支援の現場で おこること②

✓ 基幹センターに実際に寄せられた相談内容より



- 
- 児童発達支援事業所に通う5歳男児がアダルトサイトを見ている
 - 放課後デイサービスに通う小5の男児が人前でマスターべーションをする
 - 小6女児が、他者との適度な距離感がつかめず、どんな大人にも抱き着く

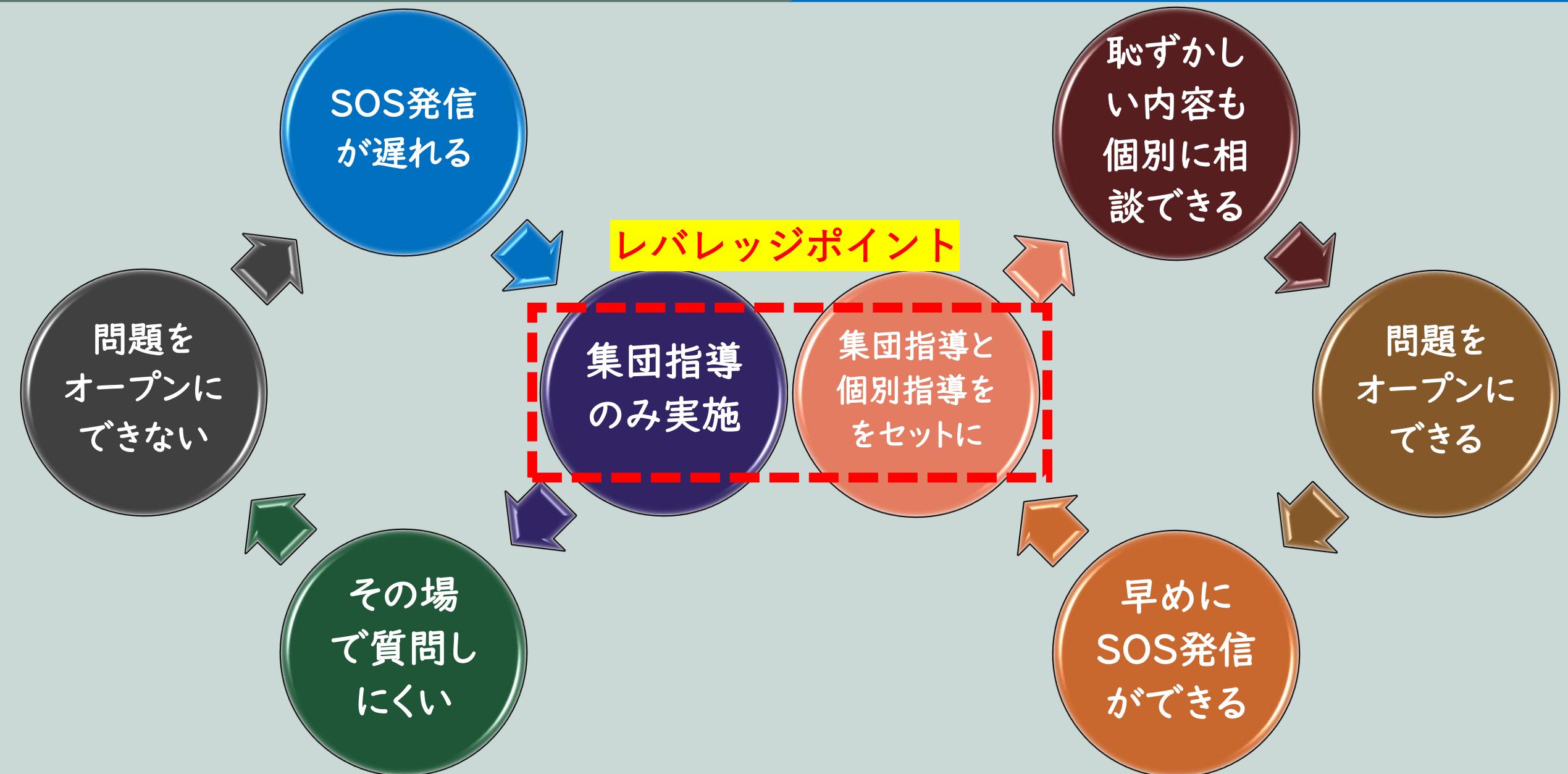
基幹センターに寄せられる相談（成人期）



1. 知的障害のある20代男女が就労継続支援B型に通所中、多目的トイレで性行為をした
2. 知的障害のある20歳の女性が、パートナーと訪れたカラオケ店で性行為に及ぼうとした
3. GH入居中の発達障害の20代男性が、同意なくスタッフの胸をさわった

従来の「性教育」のありかた

これからの「性教育」のありかた





①事業所スタッフへのヒアリング

事業所スタッフの皆さんの「困りごと」をかかえこませない
親御さんの対応の後方支援をしながら本人へアプローチ



本人や親御さんへの対応の有無、内容、方法論を確認。本人のアセスメント情報や家族状況を知る機会とする。



事業所の対応は否定しない😊 軌道修正したほうがいいかを見極める。

※この時点で、事業所&親御さん向けの「性を学ぶ」研修会をすることもできます😊



②親御さんとの面談を実施する

親御さんの「性」への価値観は、時に性教育の障壁になりうる

両親との面談で なにを話す？

- 親子の距離感
- 心配のしかた、度合い
- 差別的な言動がないか
(例:不妊手術への言及の
有無)
- すべてを禁止しようとする
考え方たかどうか
- 自宅で性について話す際の
ポイント伝授



親御さん的心配を受け止めるのは大前提。
チームアプローチには親御さんの存在は必須😊
一方で、親御さんのかたよった価値観や頑なな
態度は、性教育への「阻害要因」にもなりうる。



1回の面談のみでよいのか、
継続的なフォローが必要かも判断する





③本人との初回面談を実施する

主な目的は、関係構築。どのくらい初回で核心部分にせまるか



本人との面談で
なにを話す？

- 
- 目的の理解のしかた
(どこまで自分事か)
 - 雑談をしながら理解力につ
いてのアセスメント
 - 集中力のつづきかた
 - 興味関心による態度の変化
 - どこまで本音で語れるか
 - アプローチの方法論



④数回にわけて個別性教育を実施する

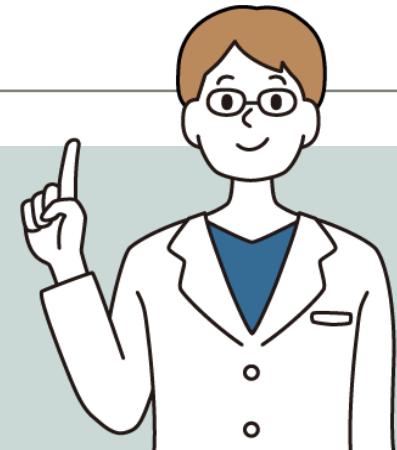
「包括的性教育」の中から、本人に必要な要素を絞り込まざるをえない



たとえば、45分間×5回のようにしてプログラムを作成。途中でパートナーや両親とも一緒に学ぶ回もつくる。毎回、前回のふりかえり（ポイントチェック）から再開して、理解度の確認をする。



行動変容、リスクに関する評価のありよう
が難しい→LINE相談も併用する。





⑤動機づけとしての「集団指導」も

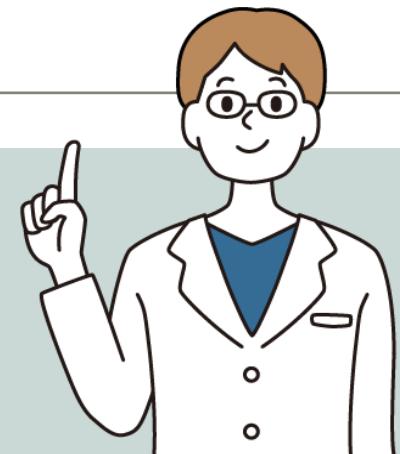
個別プログラムへの参加につなげるための仕掛け…?



集団指導のほうが受け入れやすい人（男性）もいる。
事業所スタッフや家族のアセスメント情報をもとに、
例：「こういうおとながモテる!!」というテーマで
性的同意や境界線、女性の体や生理について話す



この後「それぞれ個別に話そう」というティで
④の個別指導に誘導していく





皆さんと一緒に「性教育」に取り組め
ることを楽しみにしています。
アンケート記入をお願いいたします😊



2024年10月18日（金）

北九州市障害者基幹相談支援センター 助産師

小児慢性特定疾病支援室長／相談支援担当課長 松本麻子